

No	139	<b>事務事業評価票</b>				所管部長等名	教育部長 北岡 博			
評価対象年度		平成23年度		所管課・係名	博物館未来の森ミュージアム 学芸係					
				課長名	有田俊二					
<b>(Plan) 事務事業の計画</b>										
事務事業名	特別展覧会事業(春季・夏季・秋季・冬季)				「主なる事業の執行状況調」における件名又は事業名	博物館特別展覧会事業				
会計区分	一般会計									
予算の事業名	博物館特別展覧会事業(春季)		博物館特別展覧会事業(夏季)		博物館特別展覧会事業(秋季)		博物館特別展覧会事業(冬季)			
事業コード(大-中-小)	44 - 27 - 01		44 - 29 - 01		44 - 26 - 01		44 - 28 - 01			
施策の体系 (八代市総合計画の実施計画における位置づけ)	基本目標(章)	第2章 郷土を拓く人を育むまち								
	施策の大綱(節)【政策】	④文化のかおり高いまちづくり								
	施策の展開(項)【施策】	①伝統の継承・活用と八代の文化の創造								
	具体的な施策と内容	(2)芸術・文化活動の推進								
根拠法令、要綱等	社会教育法、博物館法、八代市立博物館未来の森ミュージアム条例、八代市立博物館未来の森ミュージアム条例施行規則									
実施手法 (該当欄を●)	● 全部直営		○ 一部委託		○ 全部委託		法令による実施義務 (該当欄を●)	○ 義務である ● 義務ではない		
事業期間	開始年度	合併前			終了年度	未定				

<b>(Do) 事務事業の実施</b>									
事務事業の概要	目的	対象(誰・何を)	成果目標(どのような効果をもたらしたいのか)						
	内容 (手段、手法等)	市民(幼児から高齢者まで)並びに市外からの来館者	○市民にすぐれた芸術作品や歴史資料に接する機会を提供することにより、新たな文化創造への意欲を高揚させ、文化水準の向上を図る。 ○八代地域の歴史・文化を掘り起こし、様々な角度から光を当てることにより、市民の郷土愛を醸成させる。 ○八代独特の歴史・文化を市内外に向かって広く情報発信する。						
事業開始時点からこれまでの状況変化等	①春季展では、各地の美術館・博物館が所蔵するすぐれた歴史資料や、絵画・陶磁器・彫刻といった芸術作品などのコレクションを紹介するもので、「九州やきもの紀行」として、財団法人田中丸コレクション所蔵の九州の古陶磁器(唐津・鍋島・伊万里焼等)の展覧会を開催。 ②夏季展では、主に夏期休暇中の児童生徒を対象とした展覧会を開催。「DOKI土器やつしろ」として、八代市内で出土した土器等の考古資料により、発掘調査で明らかになった八代の歴史を紹介する。さらに、体験講座(勾玉づくり)等も同時に開催。 ③秋季展では、八代の歴史・文化に関する事象を独自に調査・研究し、それを日本史全体の流れのなかに位置づけ評価するもので、「大妙見祭展」として、国の重要無形民俗文化財の指定を受けた妙見祭の変遷や、周辺地域に与えた影響などを紹介。 ④冬季展では、「城下町「やつしろ」のお雛祭り」開催にあわせて、城下町八代にふさわしい企画として、「八代焼」の展覧会を開催。 事業開始以来、当館の特別展覧会は、郷土の歴史・文化に根をおろした独自の企画であるとの評価が定着し、市内のみならず県内外の歴史愛好者から広く支持を得ている。特に、毎年、秋季展で刊行している展覧会図録は、八代を知る上でかけがえのない資料として、学校教育や生涯学習のみならず、地域振興や観光の面でも活用されている。一方で、国内外のすぐれた芸術作品を紹介する美術展については、近年の厳しい財政状況の中で自館の収蔵品による展示活動を余儀なくされる館が増えているため、作品の借用が困難な状況に陥っており、さらに長引く景気低迷により入館者数も全国的に減少傾向でもある。しかし、当初掲げた事業開催の意義は、いささかも色あせることなく、平成22年度に実施された市民事業仕分けにおいても、「規模拡充」の評価を受けたように、その必要性は増すばかりである。								

コスト・成果指標の推移										
コスト	総事業費		単位	22年度決算	23年度決算	24年度予算	25年度見込	26年度見込	27年度見込	
	事業費(直接経費)		千円	25,123	33,103	31,933	31,510	31,510	31,510	
	財源内訳	国・県支出金	千円	0	0	0	0	0	0	
		使用料・手数料	千円	0	0	0	0	0	0	
		市債	千円	0	0	0	0	0	0	
		その他(入館料、図録販売)	千円	2,866	3,060	4,314	4,300	4,300	4,300	
		一般財源	千円	8,677	10,443	9,839	10,200	10,200	10,200	
	概算人件費(正規職員)		千円	13,580	19,600	17,780	17,010	17,010	17,010	
	正規職員		従事者数	人	1.94	2.80	2.54	2.43	2.43	2.43
	臨時職員等従事者数		人	9.00	9.00	9.00	9.00	9.00	9.00	
(もたらそうとする効果の数値化)	指標名	指標設定の考え方	単位	22年度実績	23年度実績	24年度見込	25年度計画	26年度計画	27年度計画	
	① 展覧会総入館者数	特別展覧会全体(春季・夏季・秋季・冬季)の入館者数を把握し、文化水準の向上を図る目安とするため指標として設定した。	人	10,745	11,975	12,000	12,000	12,000	12,000	
	② 入館者の理解度(会場アンケートに「よかった」又は「ふつう」と回答した人数/全回答数)	アンケート調査によって、展覧会が「よかった」もしくは「ふつう」と回答した人は、展示内容については、ほぼ理解できたものと解釈できるため指標として設定した。	%	98.2	100	100	100	100	100	
(記述欄)※数値化できない場合										

(Check) 事務事業の自己評価

事業実施の 妥当性	①	【計画上の位置付け】 事業の目的が上位政策・施策に結び つきますか	A 結びつく B 一部結びつく C 結びつかない	(現状分析等) A ○本事業は、市民にとって郷土八代を正しく、詳しく理解することが できるまたとない機会となっており、八代市総合計画に掲げている 「文化のかおり高いまちづくり」にも大きく寄与している。
	②	【市民ニーズ等の状況】 市民ニーズや社会状況の変化によ り、事業の役割が薄れていませんか	A 薄れていない B 少し薄れている C 薄れている	A ○市民の歴史・文化への知的好奇心や、すぐれた芸術作品との出 会いへの欲求は少しも衰えておらず、むしろニーズは増加している。 ○当館は、博物館法に基づき、市民の教育、学術及び文化の発展 に寄与する目的で設置されており、開館以来、専任の学芸員が八代 の歴史や文化を発掘・検証し、特別展覧会を通して市内外に情報発 信を行っている。それを継続するためにも、市が主体となって地域に 密接した事業を展開する必要がある。
	③	【市が関与する必要性】 市が事業主体であることは妥当です か(国・県・民間と競合していません か)	A 妥当である B あまり妥当でない C 妥当でない	A
活動内容の 有効性	①	【事業の達成状況】 成果目標の達成状況は順調に推移し ていますか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	(現状分析等) A ○開館20周年を過ぎ、地道な事業活動の蓄積は大きく実を結びつ つあり、当館独自の事業は、市内外から一定の評価と支援を得て いるとともに、今後の取り組みに対しても大きな期待が寄せられて いることから、成果目標の達成状況はおおむね順調に推移している。 ○事業内容自体を見直す必要はなく、今後も地道に地域独自の自 主事業を展開していくことが最も重要である。
	②	【事業内容の見直し】 成果を向上させるため、事業内容を見 直す余地はありますか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A
実施方法の 効率性	①	【民間委託等】 民間委託、指定管理者制度の導入な どにより、成果を下げずにコストを削 減することは可能ですか	A できない B 検討の余地あり C 可能である	(現状分析等) A ○当館は、文化庁の公開承認施設として、特別展覧会等で国指定 重要文化財の展示を行っており、重要文化財の取り扱いに精通した 学芸員によってスムーズな展示作業等ができていないため、簡単に民 間等へ委託できるものではない。
	②	【他事業との統合・連携】 目的や形態が類似・関連する事業と の統合・連携によりコストの削減は可 能ですか	A できない B 検討の余地あり C 可能である	B ○類似する事業はないが、講演会などについては、他事業等との連 携を検討する余地はある。 ○展覧会開催に関わる業務は、所蔵者との長きにわたる信頼関係 により成り立っており、正規の職員が責任を持ってあたることがあ る。
	③	【人件費の見直し】 非常勤職員等による対応その他の方 法により、人件費の削減は可能ですか	A できない B 検討の余地あり C 可能である	A ○平成23年度に、特別展覧会(夏季・冬季)の観覧料を見直し、 各々100円の値上げを実施しており、再度の値上げに伴う博物館離 れが危惧されることから、見直しの余地はない。
	④	【受益者負担の適正化】 受益者負担に見直しの余地はありま すか(引上げ・引下げ・新たな負担・廃 止)	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A

(Action) 事務事業の方向性と改革改善

今後の方向性 (該当欄を●)	<input type="radio"/> 不要(廃止) <input type="radio"/> 民間実施 <input type="radio"/> 市による(民間委託の拡大・市民等との協働等) <input type="radio"/> 市による実施(要改善) <input checked="" type="radio"/> 市による実施(現行どおり) <input type="radio"/> 市による実施(規模拡充)	(今後の方向性の理由) 本事業は、市民生活を豊かで潤いのあるものにすることを目指すとともに、郷土の歴史・文化 に対して確かな知識を持ち、将来の八代を拓く大切な人材を育てるためにも必要不可欠なもの である。そのためにも、八代市総合計画に掲げる「文化のかおり高いまちづくり」の土台ともな なる本事業を、今後とも開催していくとともに、より魅力ある展示資料と接する機会を市民に提供 するため、より一層財源の確保に努め、内容の充実を図っていく必要がある。																						
改革改善内容	<b>今後の改革改善の取組と、もたらそうとする効果</b> 今後の取組としては、特別展覧会の開催自体は、展示作品の取り扱いや所蔵者等の個人 情報保護といった観点から専門職員主体にならざるを得ないが、展覧会に関連した広 報、講座・講演会の運営等については、博物館友の会をはじめとする市内諸団体や個人 の参加を広く求め、市民との協働を実現することにより、展覧会をより身近なものと感じて いただく機会となる。 また、新たな財源の開拓(民間からの協賛等)による運営予算の拡充は、展覧会の企 画・展示内容の一層の充実や、展覧会の魅力拡大につながり、「市民の創造への意欲を 高揚させ、文化水準の向上を目指す!」という事業目的を大きく前進させることにもなる。	<b>改革改善による期待成果</b> <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持					低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上		○																					
	維持																							
	低下																							

外部評価の実施	有：外部評価(市民事業仕分け)	実施年度	平成22年度
---------	-----------------	------	--------

決算審査特別 委員会における 意見等	(委員からの意見等)
--------------------------	------------